

## 1 日 時

令和3年3月4日（木）14:30～16:00

## 2 場 所

沼津市民文化センター 第5会議室

## 3 出席者

植松 千明（開北小学校 校長）                      芹沢 美穂（門池小学校 教諭）  
蓮池 千春（金岡小学校 教諭）                      内村 美恵子（香貫小学校 教諭）  
相原 恵（大平幼稚園 主任教諭）                      岩本 美穂（光長寺幼稚園 教務主任）  
眞野 裕輝（原町幼稚園 副主任）                      渡邊 仁美（北部保育所 副所長）  
須山 静香（天神保育園 副主任）  
杉浦 敬子（幼保連携型認定こども園杉浦学園 副園長）  
後藤 信俊（幼保連携型認定こども園こずわ幼稚園 園長）  
教育企画課、子育て支援課、学校教育課（事務局）  
※欠席 小川 達美（小百合保育園 副主任）

## 4 協議内容

幼保小の円滑な接続について

（事務局より）

- ・沼津市として、子供だけでなく教職員の連携や交流・情報交換をどのように進めたらよいか。
- ・円滑な接続に向けてどのような接続期カリキュラムを実施していけばよいか。

（主な意見）

### **コロナ禍における連携・交流について**

- （小）交流会は中止にしたが、感染症対策をした上で、園児が授業の様子を見学した。園児にとっても入学への心構えができ、1年生にとっても上の学年になる心構えができた。
- （小）例年6月に幼保の先生に1年生の5時間目の授業を見ていただき、その後、園での様子を教えていただいている。今年は人数を絞る形で9月に行ったが有意義な会となった。
- （幼保）年々幼保の先生が小学校に行くことが厳しくなっている。授業風景を見るということであれば、動画でということもできる。直接行かなくてもできる情報交換もあるのではないか。
- （幼保）幼保と小学校で連携や交流のねらいが何なのか共有するとよい。目的を考えることは大切なことである。
- （幼保）他の園や学校の取組の様子が分からない。今年度の状況下で、幼保と小学校がどのような連携や交流を行ったのか情報共有できるとよい。
- （小）今年度の取組を取りまとめ、共有したい。コロナ禍の中にあっても、幼保と小学校が工夫した活動をしていることを知らせ、来年度以降の参考にできるようにしたい。

- (幼保) コロナでなかなか交流ができない中、小学校教務主任がサンタや豆まきのかぶり物などの手伝いを名乗り出て協力してくれた。子供たちも小学校の先生が好きだと言っている。
- (幼保) 幼保と小学校の情報交換については、人間関係が構築されていれば、気軽に電話をしたり聞いたりできる。
- (小) 電話であっても、園での子供や親御さんの様子を聞かせてもらえると、小学校としては非常にありがたい。
- (幼保) 時間がない中でも子供のためであればいくらでも時間は割く。電話でも対面でもよい。
- (幼保) 教員の2年目研修を受け入れたが、すごくよかった。特に小学校の先生には、これまで園でどのように保育してきたかというところから、どのように小学校での教育につなげていったらよいか感じてもらうとよい。
- (小) 幼保に行き、どのような保育や教育、指導がされているか知ることは、入学後に6年間掛けて子供を育てていく上で非常に大事な気付きとなる。園ではこのように頑張っているということを知ることは、その後の指導に生かされる。自校では、幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を知らない先生も多い。小学校教員には知る機会が必要である。
- (幼保) 1年生になったときの躰きから、幼保でこういうことをしておいてもらうとスムーズに学習に入れたのではないかというところを知りたい。沼津市内のどの幼保でもやっておいた方がよいと思われることを園に流してもらえると、それぞれの園のやり方で取り組み、子供たちの小学校での躰きが少しでも減ることにつながるのではないだろうか。
- (幼保) 1年生になったときに、どのようなことが一番困るのかということは、幼保の間に育てておいた方がよいことと重なるのではないか。
- (小) 一番困るのは、教室から出て行ってしまうことである。授業時間は教室にいてほしい。
- (幼保) 幼保が小学校と違うのは、親御さんと話をする時間であろう。親御さんと密に連絡をすることで、家庭環境を知ることでもでき指導や助言もできる。幼保では、保護者に電話連絡を頻繁にしており、ちょっとしたことでも伝えるようにしている。小学校で、担任の先生が困ったらどんどん幼保に連絡し頼っていただきたい。
- (幼保) 預かり保育の増加、放課後児童クラブの利用者の増加など、これまでの当たり前が当たり前でなくなっている。保護者の指導力や家庭の教育力の低下が懸念される。

#### **接続期カリキュラムの策定に向けて**

- (幼保) 今後ますます家庭との連携が必要になってくる。この協議会では、幼保と小学校の連携について話し合いをすることが多いが、沼津市独自のカリキュラムを策定するのであれば、カリキュラムの中に、家庭との連携の項目を設けるとよい。
- (幼保) カリキュラムをつくるのはすごく大変なことである。幼保小接続期カリキュラムの策定に向け、沼津市としてどこに重点を置くのかということを考えていくとよい。
- (小) 来年度、ゼロから接続期カリキュラムを作り上げるのは、3回の会合では難しい。県版のカリキュラムを参考にしつつ、沼津市としてどこに重点を置いて取り組んでいくのかということになると思う。